

平成 28 年度 双葉町復興町民委員会
第 1 回 町の復興部会 報告書

- 日時 平成 28 年 7 月 21 日（木）13 時 00 分から 16 時 00 分
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2 階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「JR 双葉駅西側・新市街地ゾーンと JR 双葉駅東側・まちなか再生の整備方針と整備イメージを考える」

■ワークショップ成果の発表

◇グループ A

参加者：白岩 寿夫、横山 久勝、相樂 比呂紀、木幡 治、澤上 榮、
木幡 智清、菅本 洋

発表の要点：

- 駅東側のまちなか再生ゾーンは、すべての住宅を取り壊して、更地から作り変えるほうがよいという意見も出た。電柱等は埋設方式にして電柱のない通りを作り、道路もロータリー交差点にするのがよい。
- 30 年後は世界中から起業家を招き、インターネットの事業を行ってもらおう。また「双葉ヒルズ」として大規模な住宅団地を造成すれば都会から人を呼び寄せることができる。
- まちづくりは、「想像もできないような夢」の話であつてもよいと思う。現実に沿った「こうしなければならない」というだけのまちづくりの議論はおかしい。ただ楽しいだけでもよい。それが未来に続くまちづくりだと思う。わが町も未来に向かって想像もできないような漫画の世界でもよいので、双葉町まちづくりの議論を皆さんで行いたい。
- 基本的にまちは一つにまとまったほうがよい。まちのまわりに農業が再開されてくるだろう。他の町村の会議に出る機会があるが、似通った方向性で話が進んでいると思う。
- 10 年後、一般の双葉町民が戻っていることは想像しにくい。現実的には作業員が中心で、そのほか町民が年に何回か集まるという形ではないか。このワークショップの成果には、理想的な面も記載しており、更地にする話や道路を作る話などもあるが、重要なのは、町民に土地を提供してもらふ必要が出てくる点だ。役場か国かは分からないが、土地買収を頑張っていたかかないと事業は進んでいかない。
- 話し合いはよくまとまったが、これを実施するためには、いかに早く手を付けて、事業進捗を後押しすることが大事だ。

【カードに書かれた意見】

《前提として》

- 10年後のまちを考える。

《大切なこと》

- 今がチャンス、ゼロベースで考えられる。
- 風評被害への対応（除染）

《JR 双葉駅西側のまちづくり》

- 公共施設をまとめてつくる（適度なサイズで）。
- 役場、病院を駅西に集める。
- 病院・消防署・警察を一体にした新しい施設
- 西側は商業エリアにする。
- 巨大な複合施設（ビジネス、公共サービス、学校など）をつくる。
- 双葉町民のための双葉町を作る（交流施設）

《深谷地区に町民グラウンドをつくる》

- 小学校は新しい浪江の小学校に通わせる。

《住宅》

- 北小の西側に住宅をつくる。
- 中野地区で働く人の集合住宅を復興シンボル軸道路沿いに建設する（集合住宅）。
- 中野地区の復興産業拠点の早い立ち上げで、住宅街ができる。

《宿泊施設》

- 大字単位で泊まれる宿泊施設をつくりたい（一時帰宅する方用に。時期を地区ごとに決めて）
- 東電社宅を再利用して、交流施設・宿泊施設をつくる。

《JR 双葉駅東側のまちづくり》

- 駅東側は時間をかけて再整備する。
- 更地にして京都の様な碁盤の目のように整備されたまちにする。
- 古いまち並みも整備していく。
- 区画整理をするなら、信号機のない、立体交差の道路を作る。
- 電信柱は地下に埋める。
- 道路を整備して、わかりやすい土地にする。
- 神社は祭りができるような広大な土地に移転する（13年に1回祭りをやっていた）。

《駅東側の施設》

- 東側にもバランスよく施設をつくる（公共施設は東口？）。
- 公共施設をまとめて駅の近くにつくる（至便性を考える）。
- 自分が持っていた店は再開したい。そのための土台づくり。
- 公園
- 体育館は今のままでは不要
- 病院周辺（東側）の線量の定点観測の強化

《その他》

- 山側を畜産業の拠点にする。
- 世界中から起業家を招く。インターネットも使う。
- 双葉ヒルズを作る。
- 都会から人を呼び寄せる新しい施設を作る。

◇グループ B

参加者：田中 清一郎、真柄 正洋、石田 翼、原中 良博、坂本 新一、
木幡 敏郎、野村 遥花（中学生）

発表の要点：

- 使える公共施設は再生させ、双葉町役場や体育館など老朽化が目立つ施設は更地にして建て替える。
- 駅西側ゾーンについては、区画整理をして京都や札幌など「碁盤の目」のようにきちんとした道路を整備する。
- 国道6号線と復興 ICにもつながる県道井手長塚線を中心に商業施設や住宅を整備する。
- 双葉町には浪江町のような商業施設がなかったので、あってもよいが、今まで駅東にあったような商店街は残して、共存共栄して欲しい。
- 最重要課題は除染であり、除染後、優良企業を誘致し、雇用の場を設け、社員が生活できる基盤を作る。そうすれば町民が戻ってくることができる。
- 復興に時間はかかるが、一步ずつ進め、現在の中学生在が30～40歳になるときに双葉町の復興が達成できていればよい。
- 昔からあった公共のもので残せるものは残す。すべてが新しいと双葉町という感じがしない。よく精査し、良いところは残す必要がある。
- 絵空事と思いがちなテーマであるが、これからの双葉町と子供たちのためにも、今どのような状況になっているかを考える。町外からも人が入ってくる「発展する双葉町」とするべきだ。
- 一番は、土地をどう活用するか、どう確保するかだ。土地区画整理を進め理想的なまちにする。

【カードに書かれた意見】

《全体的な意見》

- よそからも住んでみたいという人が増えるような町に！！
- お金は誰が出すのか。国・自治体・個人でどのくらい負担が必要か。
- 住宅地が整っても、個人ですぐそこに家を建てようという人はいない。

《JR 双葉駅西側・新市街地ゾーン》

《公共ゾーン》

- 駅の西に役場をドーンと「新しく出発する」というイメージで。
- ヘリコプターが2台降りられるように広場を作る。
- すべて更地にしてまちをつくることのできるなら、いろいろと整備できる。碁盤の目の様な、京都の様な町にする。

《商業》

- 大きなショッピングセンターがあったらいい（浪江のサンプラザみたいな）。
- いわきのエブリアみたいな場所
- 町の人への利便性と他から来る人の来やすさの両方を満たす立地
- 復興道路に沿って商業施設を作るのがよい。
- 駅の西側は現実に十分な土地を確保できるのか？

《地盤が心配なエリア》

- 住宅用地として適しているか考慮すべき。
- 山を崩して地盤をかさ上げして団地にすれば住宅エリアとしてよいのではないか。

《線量が低いエリア》

- 総合グラウンド、キャンプ場、家族向けレジャー施設

《JR双葉駅東側・まちなか再生ゾーン》

- 公共のもの、古いまち並みは、壊すほどではない。ただ5年たっているもので耐震など精査すべき。
- 個人の土地をそれぞれがどうするかが重要だ。
- 公共施設をまちなか再生ゾーンに集める。
- まちなか再生ゾーンに公共施設（役場を含め）を作る（駅と6号線の間）。

《双葉町東口駅前》

- ステーションプラザは、交流、コミュニティの場所として、そのまま活用したらよい。
- フランスの凱旋門のようなロータリーを駅前に作り、地下に防火用水を作る。
- 駅前にミニ商店街を再生する（床屋、ラーメン屋）。

《病院、体育館の周辺を福祉ゾーンに》

- 復興道路と6号線の付近に役場、医療、公共施設を。
- 病院は建て替える。
- 病院か役場の近くにヘリポートを作りたい。
- 周囲でマラソンができるような多目的に使える体育館を。
- 体育館や図書館はまだ使える。
- 駐車場を確保しないと、人が集まる場所としては不便。

《6 号線の沿線》

- 6 号線を 4 車線にしてほしい。
- 6 号線の脇など、土地が確保できるところに商業施設を作る。
- 県道の両側を自転車道、歩道を作ってください。

《旧役場》

- 震災前から役場の老朽化は深刻だった。
- 役場を公共ゾーン（まちなか再生ゾーン）へ移動させる。

《中野地区産業復興拠点》

- 優良企業を誘致
- まずは除染や雇用が先

《その他》

- 中間貯蔵施設のそばにあまり色々作りたくない。

◇グループC

参加者：伊藤 哲雄、高野 利彦、作本 信一、齊藤 六郎、藤田 博司、
小川 貴永、木幡 穰清（中学生）

発表の要点：

- 駅東側の旧国道に沿った通りは、元の双葉町の文化やまち並みを少しでも残しておきたい。
- 駅西側は新しいまちとして役場を移転し、復興住宅を作り、一つのコンパクトなまちとして機能させる。
- 商店街を復活させて、もとの双葉町の状況を再現する。商店街はひどい状況なので、昔のまちなみの写真をもとに大正や昭和のまちを再現する。
- 中野地区産業復興拠点を動かすために、ある程度の衣食住ができる施設を旧国道沿いに持ってくる。
- 旧国道沿いは、寺社仏閣が壊れた状態なので、復活させて神事を再開する。
- 帰還した時に思い出のある神社があるとよい。
- まちづくりには、「心に残る場所」があることが大切だ。元のまちが再生されれば町民が戻るかもしれない。そういった点から討議をした。ハード面も大事だが、ソフト面からのまちづくりも必要だ。
- 役場を西側に作る理由は、役場が昔田畑の中にできて周辺が発展したという経緯がある。西側と東側を結び付ける道路が必要で、JR が開通する前に実施すべきだ。

【カードに書かれた意見】

『JR 双葉駅西側・新市街地ゾーン（新しいまち並み）』

《東西自由通路》

- 一番はじめに自由通路をきちんとすべき。

《住宅ゾーン》

- これでいい
- 駐在所（安全、防犯対策）を作る。

《北小学校》

- 缶でつくられた恐竜があった。

《西部地区》

- 南小近くに古墳がある。
- 山の除染をどうするべきか。
- きのこ狩りをした。

『JR 双葉駅東側・まちなか再生ゾーン（なつかしいまち並み）』

《まちなか再生の考え方》

- なつかしいまち並みを再生した新しいまち並み。
- 街道は残しておきたい。
- 昔のまち並みを取り戻したい。

《なつかしいもの》

- 桜並木
- 林肉屋のコロッケ
- 造り酒屋
- キッチンたかさき
- 理容室
- いっぷくや（飲み屋）
- だるま市

《神社・仏閣の再生》

- 正福寺
- 初發神社
- 秋葉神社
- 光善寺
- 自性院

《町民グラウンドの活用（イベント）》

- 地区対抗運動会に全員参加する。
- ミニ野馬追い（7月ごろ）
- 盆踊り（町民グラウンド）

《新しくつくりだすもの》

- コンビニ
- スーパー
- ガソリンスタンド
- 衣食住に足りるもの

《旧役場》

- 環境管理事務所にしてはどうか。

《道路整備》

- 道路整備を初めにすることで、人の行き来がしやすくなる。

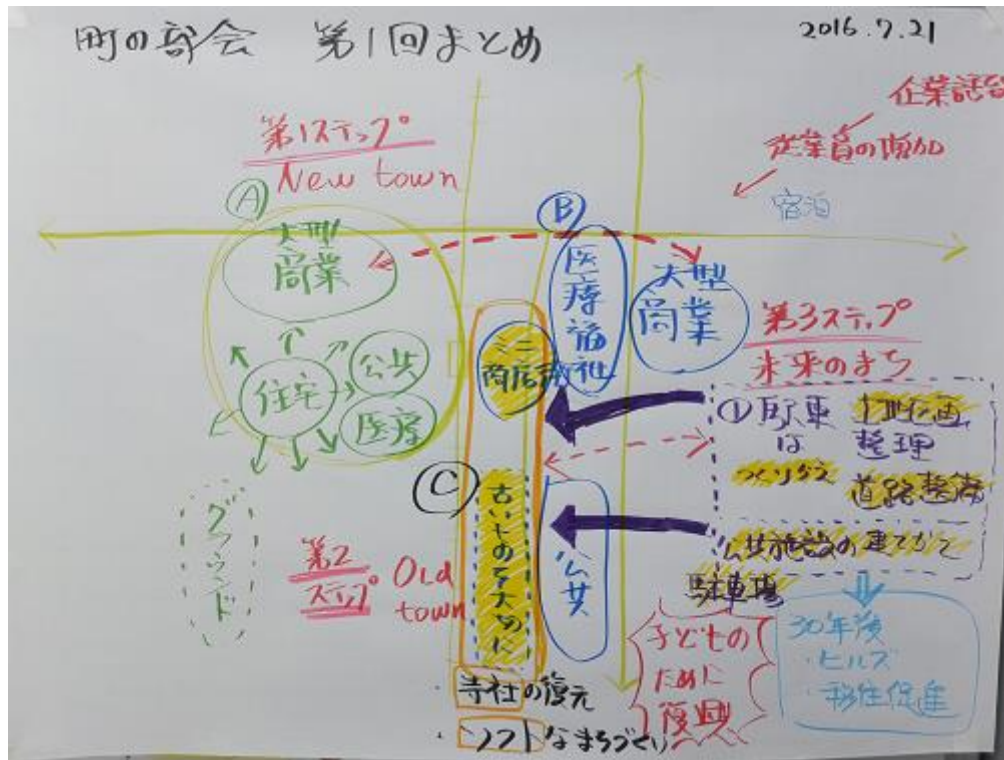
《中野地区産業復興拠点》

- 除染した後の農地の土質をどのようにするのか。
- 農業の復興
- 工場地域と中間貯蔵施設が近接した農地で農業をするための課題を解決する必要がある。
- 産業復興拠点には他市町村と同じものを作らない。

■ファシリテーター金子先生によるまとめ

- 3 グループとも第1ステップとして駅西側で公共・医療・住宅を作ることは、程度の差はあれ全体として合意していたと思う。
- 商業については、将来を考えると、沿道での大型商業の時代ではないか、という意見があった。駅西側に小さなものを作っても、中野地区の人たちが利用しやすいかどうかという問題がある。商業の立地については、駅西でも北の位置か、復興シンボル軸と国道6号の交差点か、又は6号線沿いの南側かという意見に分かれた。
- Bグループは、駅東側の再生である。長期にわたってまちづくりを実施するのであれば、土地区画整理や道路整備をしっかりと行い、未来のまちづくりを行うという意見があった。30年後に六本木ヒルズのような高いマンションを建て、外部から人を入れるという発想がよいのではないか、という意見もあった。しかしながら、その中でも、駅の東口駅前でなつかしいミニ商店街を再生する提案もあった。一方で神社を広い土地のある山へもっていくという意見もあった。また、商業は東側のほうが利便性が高く、医療・福祉は今あるものを活かし、公共施設は図書館や体育館があるので、東側で建て替え、その中で駐車場の整備をしっかりとすることが提案されていた。
- Cグループは、駅東側の旧街道に注目し、古いものを大切にし、ソフト事業によるまちづくりも大切と考えていた。また、神社仏閣の復元にも取り組んで欲しいとの意見があった。具体的には、駅西側の第1ステップを経て、駅東側を第2ステップと位置づけ、残すべき古いものの再生から着手して、それ以外の土地については土地区画整理や道路再整備にじっくりと取り組み、将来に備えたらよいとの意見であった。
- 中野地区の企業誘致や農業再生で働く人の利便性向上のため、商業や公共医療などの充実を望む意見が強かった。
- 全体として今後10年間に自分が帰還するという前提の意見は少なかった。町民は日帰り又は一時滞在がほとんどであり、居住者は、大多数が外部からの従業者ではないかという意見が多かった。

3つのグループ発表をまとめた結果



■ 参加者の意見交換

- 10年後もまだ福島第一原発の廃炉の真っ最中であり、また、もしかしたら帰還困難区域が見直され、除染も本格的に始まっているかもしれない。そのような中で、現状は、仕事現場が遠く、朝が辛い。福島第一原発や除染関係者にとっては、双葉町に宿泊する場所ができれば利便性が高まるのではないかな。
- インフラ整備に早く着手してもらわないと、復興にも遅れがでる。早めをお願いしたい。
- 中間貯蔵に持ち込む土壌について、97%まで除染ができるという報告がある事業者から聞いた。それができるようになれば、放射性物質の心配事が消える。
- 今回のワークショップの参加者が「住む」という前提で議論していないのは、国が帰還に向けた道筋を示していないことが原因だと思う。

■ 金田勇副町長コメント

新しいものと古き良きものをどのように融和させていくのかが大事だ。今回の意見は、町の課長級以上で組織している推進会議でしっかり受け止め検討して計画に反映する。

■ 伊藤哲雄部会長コメント

双葉町に役立つ意見を出し再興できる町にしていきたい。

■ 木幡敏郎副部会長コメント

どれだけ町の人が帰還するのが心配だ。上尾に住んでいるが、首都圏では事業者間の競争が存在するため、消費者にとっては便利さがある。双葉町のような小さい町でも、特色あるまちづくりはできる。農業を含め他からも住んでみたいという声もでてきてほしい。

以上

双葉町復興町民委員会 第1回町の復興部会 座席表

(敬称略)

